

鳩槃荼像 国宝

これは八部衆の一人、鳩槃荼の像である。ヒンドゥー教、ジャイナ教、および仏教における「ヤクシャ」を表していると考えられている。「ヤクシャ」は善良な精霊、または旅行者を襲う悪鬼として考えられている。睨みつけるような目とむき出しの歯を持つ鳩槃荼は、後者を表現しているようである。日本の仏教においては、ヤクシャは四天王の一人で戦いの神である毘沙門天（多聞天）の召使である。毘沙門天は北の方位を守る守護神で、正しい人々を保護する、善なる神として見なされている。他の八部衆の像と同様に、この像も734年につくられた。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。